

循環器（カテ室）プロジェクトチーム 活動報告

1. 循環器診療（カテーテル）の拡充における、現段階の位置

下記の整備計画において、2025 年 8 月末時点では第 2 段階の①にあり、同段階の②以降への拡充を計画している。

カテーテル業務に関する整備計画（※ 2024 年度第 3 回病床機能検討部会 資料 7）

第 1 段階	…	24 時間 365 日、循環器内科医が循環器疾患に対応可能（緊急カテは中央市民などに転送）
第 2 段階	…	平日日勤帯に待機的・緊急カテ対応可能
		① 月曜
		② 月曜、水曜
		③ 月曜、水曜、金曜
		④ 平日全て
第 3 段階	…	平日夜間帯に緊急カテ対応可能
		① 輪番日（二次救急もしくは循環器）
		② 平日全て
第 4 段階	…	土・日・祝日の日勤帯に緊急カテ対応可能
第 5 段階	…	〃 の夜間帯 〃 （→24 時間 365 日、緊急カテ対応可能）
第 6 段階	…	24 時間 365 日、緊急カテ対応可能な医師が院内常駐

2. 実績報告

別添資料①に、診療実績を示す。

2025 年 3 月より 8 月末までに、心臓・下肢カテーテル術を計 16 例施行予定である。（当資料作成の 8 月 22 日現在、計 15 例施行済。）

別添資料②に、2025 年 3 月以降に実施した心臓・下肢カテーテル術のフローを示す。

全ての症例において、術前および術後に医療安全管理室スタッフも交えた多職種カンファレンスを行っており、医療安全と質の向上を確保するよう努めている。また症例が発生したタイミングで臨床倫理チームによるモニタリングが開始され、症例の適応、術前の説明と同意（IC）、術後の説明、カテーテル術の実施体制などについて評価が行われている。

これにより、心臓・下肢カテーテル術に関して、医療安全と倫理それぞれの観点からモニタリングを行う体制が確立された。とくに倫理面については、臨床倫理チームによるモニタリング結果の報告に加えて、担当医による術前検討（適応）および術後報告（手技結果）に関しても、逐一外部委員に評価を依頼している。

3. 医の倫理委員会での協議内容、評価、外部委員の意見

医の倫理委員会に設置された臨床倫理チームによるモニタリングでは、8 月 22 日現在、

術前 16 症例、術後 12 症例について、「発生した問題はプロジェクトチーム内で遅滞なく共有され、術後の多職種カンファレンスで協議・検討が実施されており、その対策方法も適切である」として、「本手技（心臓・下肢カテーテル術）の継続実施に問題なし」と評価された。加えて、別添資料①中の症例①～③については、医の倫理委員会での審議も完了し、とくに指摘事項なく承認を得た。（次回 8/29 に開催される医の倫理委員会にて症例④～⑫を審議予定。）

また既述の通り、2025 年 3 月以降に施行された全症例で、担当医による術前検討（適応）および術後報告（手技結果）、臨床倫理チームによるモニタリング結果について、外部委員の評価を受けた結果、開始初期には IC のカルテ記載に関する指摘や合併症における留意事項の示唆があったが、すべての症例で「適切である」と評価された。

別添資料③に、これまでの心臓・下肢カテーテル術についての外部委員の意見書を示す。

4. 今後の進め方

今後は、カテ室スタッフの教育・研修・応援体制と安全・倫理両面のモニタリング体制を維持しつつ、外部委員への報告については、細部が事後検証可能な形式で、逐一の報告から定期のモニタリング結果報告に移行し、医の倫理委員会で承認を得ながら、冒頭に示した心臓・下肢カテーテル術の整備計画を拡充する。

最終的には、宇治徳洲会病院からの支援を受けなくても、神戸徳洲会病院のスタッフで「迅速・確実・安全」な検査・治療が実施できることを目標としたい。